

第40回中国四国医師庭球大会

と き 令和5年4月29日(土・祝)

ところ びんご運動公園(尾道市)

[報告:徳山医師会 古谷 隆和]

4月29日、広島県尾道市の「びんご運動公園」で行われた第40回中国四国医師庭球大会に出場してきました。毎年春に瀬戸内5県(山口、広島、岡山、愛媛、香川)の医師や医師配偶者がチームを作って、ダブルス3ペアで勝負するテニス団体戦の大会です。以前は3クラス制でしたが、今大会は参加チーム数の関係でAとBの2クラスに分かれて行われ、山口県からは男性が「長州セブンA」としてAクラスに、女性が「長州セブンB」としてBクラスにエントリーし、参加してまいりましたので報告させていただきます。

試合当日の朝、隊長の宇野先生とともに子供から大人まで約20人の一行はテニスバッグを持って新幹線に乗り込み、初対面同士のあいさつや記念写真を撮りながら新尾道駅へ、さらにタクシーに5分程乗って緑に囲まれたびんご運動公園に到着しました。あいにくの雨天でしたが、屋内と屋外のコートを使って、各クラス5チームずつの総当たり戦、6ゲーム先取ノーアドバンテージ方式で熱戦が繰り広げられました。長州セブンAもBも格上クラスでの戦いとなり、結果はどちらも5チーム中4位と輝かしいものではありませんでしたが、それぞれの勝負やドラマがありました。

テニス歴1年の梅原夫人は北川夫人と組んでデビュー戦を勝利で飾り、ゲームカウント0-4から劇的な大逆転勝利をした赤尾夫人・福村先生ペア、4位5位決定戦の5-5、40-40のドキドキ最終ポイントを獲得し4位を決めた中村先生・梅原先生ペア、そして雨脚が強くなった中の長州セブンAの最終戦、水町先生・多田先生ペアの試合では順位はすでに決しているにもかかわらず、両チームのメンバーがコートサイドで傘を置いて応援する姿はまさに体育会のノリ

でした。尾道でラーメンを食べてみたいという思いは叶いませんでしたが、団体戦の醍醐味を味わうことができました。中村先生が雨の空を見上げながら「今日は参加できてほんとによかったよ」と言われた一言は印象的でした。

この大会、テニスの実力を競う選手から楽しく遠足感覚の選手までさまざまですが、コロナの落ち着きで参加者や参加チームが増えると、それぞれ目的に合わせてさらに良い大会、良い交流になると期待できます。病院や医師会、友達同士、部活動の懐かしいメンバーなど、6人集まれば参加できる大会です。次回、皆様と一緒に参加できることを楽しみにしております。

<今回の参加者>

長州セブンA:中村 和行	多田 良和
北川 博之	水町 宗治
梅原 毅	古谷 隆和
赤川 誠	
長州セブンB:宇野 慎一	赤尾真由美
北川 昭子	福村 美帆
梅原千加子	古谷 万有
赤川 裕貴	

